

29

千代田区景観まちづくり重要物件

竹むら

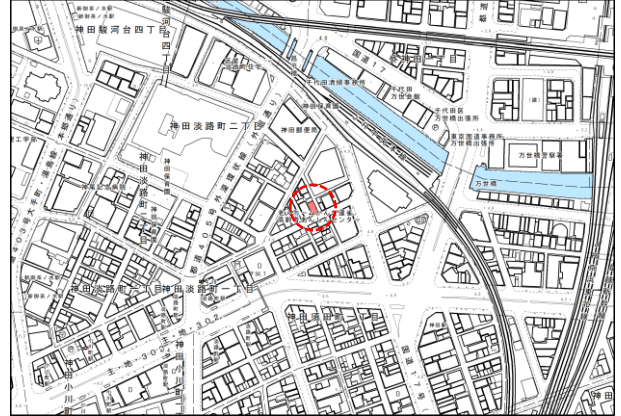
指定日 2003（平成 15）年 6 月 9 日

所在地 神田須田町一丁目 19 番地

設計者 不詳

竣工 1930（昭和 5）年

文化財等
指定状況 東京都選定歴史的建造物



▲竹むら

歴史・文化的特徴

竹むらは、1930（昭和5）年創業の甘味の老舗です。作家池波正太郎が通ったことでも知られています。

明治初期に武家地を開発してつくられた地域に位置しています。近くにあった筋違橋門内の広場は八路ヶ原と呼ばれ、交通の結節点でした。その後、1912（明治45）年に万世橋駅が建設され、もっとも賑わう場所となりました。また、地域の南側には、1928（昭和3）年まで青果市場があり、活気のある場所でもありました。

奇跡的に戦災から焼け残り、昔ながらの情緒を漂わせています。

東京都選定歴史的建造物にも選定されています。

意匠・構造の特徴

小振りではありますが丁寧な造作で仕上げられており、木造の3階建としては貴重な建物となっています。外観は屋根と庇で4層に見えます。

入母屋造りで2階の欄干に竹と梅模様が彫られ、軒下に木製の提灯が下げられています。

建物は修復が施されており、創建当時の原型をよく留めています。

周辺景観との関係

周辺にも老舗の飲食店が多く、老舗街のイメージに合った景観を形成しています。

交差点の角地にあるので、建物全体がアイストップの役割を果たしており、店先の植栽が潤いを与えています。

モルタル塗りの外壁を持つ建物が多い中で、板張りの建物は風情有あり、「和」の雰囲気を出しています。